＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

事業所番号	4670105008
法人名	医療法人　博悠会
事業所名	グループホーム　エデンの丘
訪問調査日	平成21年12月1日
評価確定日	平成21年12月29日
評価機関名	特定非営利活動法人　シルバーサービスネットワーク鹿児島

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等　＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族　＝家族に限定しています。

運営者　＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝　管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム　＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評 価 結 果 概 要 表

【評価実施概要】

事業所番号	4670105008
法人名	医療法人　博悠会
事業所名	グループホーム　エデンの丘
所在地	鹿児島市坂元町161番4号　（電　話）099-247-5050

評価機関名	特定非営利活動法人　シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号　南光ビル303号
訪問調査日	平成21年12月1日

【情報提供票より】（ 平成21年11月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 18年2月13日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	18　人	常勤　16人，非常勤　2人，常勤換算　16.1人	

（2）建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り
	2 階建ての　1 階　～　2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	39,000　円	その他の経費(月額)	15,000　円
敷　　金	有（　　円）	(無)	
保証金の有無（入居一時金含む）	有（　　円）(無)	有りの場合償却の有無	有／無
食材料費	朝食　　円	昼食	円
	夕食　　円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000円		

（4）利用者の概要（ 11月1日現在）

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	1	名	要介護2	8	名
要介護3	7	名	要介護4	1	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	87 歳	最低	77 歳	最高	100 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	中村(哲)産婦人科・内科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街に建てられたこのホームは、周囲を銀行やコンビニ、レストランなどに囲まれており、生活に便利な環境である。管理者および職員は住民との交流を大切に考え、地域の行事には積極的に参加、協力することで、地域に欠かせない存在となっている。職員は、常に「利用者が自分の家族だったらどうするか」と考えながら日々接している。業務に追われず、ゆっくりとした時間の中で利用者と多くの言葉を交わすことで、一人ひとりの思いを把握して、その人らしい生活が送れるように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

職員を育てる取り組みについては、新人研修計画や年間計画を作成し、職員のスキルに応じて担当制で研修を行う体制を整えている。災害対策については、夜間を想定した避難訓練も実施し、昼夜を問わず対応できるように取り組んでいる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

職員全員で自己評価を行い、ケアの振り返りの機会となっている。前回の外部評価で指摘された項目は、改善に向けて職員間で話し合い、取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

様々な立場の方々が参加され、意見交換が行われている。その場で解決できなかった課題については、後日結果を報告し、その場限りの会議にならないように努めている。出された意見は積極的に反映し、サービスの質向上に努めている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

年に2回の家族会や訪問時など、ご家族に意見を求め、気軽に希望や意見が言えるように心がけている。出された意見については話し合いを持ち、改善が必要な場合には早急に対応している。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

民生委員の定例会に場所を提供したり、地域の行事にテーブルを貸し出すなど、地元の方々に役立てるように努めている。また、地域の行事には職員の出し物もあり、住民の楽しみにもなっている。近くの公園の草取りを行ったり、ホーム便りを利用者と一緒に配布するなどして、地域との交流をさらに深めている。

2.　評価結果詳細

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	〇地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	温かい雰囲気の中で、地域との交流を図りながら生活が送れるようにとの思いを込めた理念になっている。		
2	2	〇理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者を自分の家族と思い、ともに生活することで、理念を実践するように心がけている。朝礼時に唱和することに加え、業務の中でも職員同士で注意しあいながら、理念を意識した支援ができるように努めている。		
2．地域との支えあい					
3	5	〇地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員の定例会に場所を提供したり、地域の行事にテーブルを貸し出すなど、地元の方々に役立てるように努めている。また、地域の行事には職員の出し物もあり、住民の楽しみにもなっている。近くの公園の草取りを行ったり、ホーム便りを利用者と一緒に配布するなどして、地域との交流をさらに深めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	〇評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、ケアの振り返りの機会となっている。前回の外部評価で指摘された項目は、改善に向けて職員間で話し合い、取り組んでいる。		
5	8	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	様々な立場の方々が参加され、意見交換が行われている。その場で解決できなかった課題については、後日結果を報告し、その場限りの会議にならないように努めている。出された意見は積極的に反映し、サービスの質向上に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談事がある場合には市役所に出向き、気軽に話せる関係作りができている。介護相談員の受け入れも行っている。地域包括支援センター職員がホームを訪れることもあり、現状を知ってもらう良い機会となっている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりについて、「ご家族様連絡表」を作成している。連絡表にはホームでの様子を毎日記録しており、ご家族が日々の様子を詳しく知ることができるように工夫している。来訪時にはご家族に声をかけ、利用者やホームの近況を報告して、安心していただけるように努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会や訪問時など、ご家族に意見を求め、気軽に希望や意見が言えるように心がけている。出された意見については話し合いを持ち、改善が必要な場合には早急に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職予定の職員と入職する職員が一緒に働く期間を設け、スムーズに引継ぎが行えるように配慮している。定期的に1階と2階の職員の異動を行っているが、日常的に交流を行っている為、利用者の混乱はほとんど見られない。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の研修は年間計画を作成し、スキルに応じて担当を決め実施している。管理者は、資格取得や研修の為に勤務の調整を行うなどの配慮をしており、働きながら学べる環境が整っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、研修や公開講座を通じて地域の同業者とのネットワーク作りに取り組んでいる。また、他のグループホームに出向いて研修を行うなど、ケアの質向上や運営に役立てている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人およびご家族に見学に来てもらい、ホームの雰囲気を知ってもらった上で入居を決めるようにしている。本人の見学が困難な場合には、病院などに出向いて本人と面談し、関係職員から情報を得るなどして、スムーズにサービスが開始できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの料理や得意な作業、趣味などを日常生活に取り入れ、利用者から教えてもらう場面を作っている。教えてもらった後には、必ず感謝の言葉を添えるようにしている。職員は利用者同士が支えあう姿を見守っており、手を出し過ぎないケアを心がけていることが伺える。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者と話す機会を多く作るように、時間に余裕を持たせており、その時間の中から利用者の思いを汲み取り、変化に気付くように努めている。また、利用者に選んでもらう場面をなるべく多く設け、希望に添った生活が送れるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎日の朝礼や夕礼、連絡帳等を通して、利用者の現状および変化について意見を出し合い、必要に応じて介護計画に反映している。また、本人およびご家族、職員が話し合う機会を設け、事業所側だけの意向で作られた計画にならないように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員から出された意見を基に、見直し前でも必要に応じて計画の変更を行い、現状に沿ったケアが行えるようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の病院受診やドライブなど、臨機応変に外出の支援を行っている。また、利用者の希望に添って、訪問理美容や訪問歯科診療を受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者およびご家族の希望に応じてかかりつけ医を決めている。かかりつけ医との連携を図りながら、病状の把握やご家族への連絡を行い、安心してホームでの生活が送れるように支援している。		
19	47	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針を作成し、入居時に説明し同意を得ている。利用者の状態の変化に応じて、ご家族に意向を確認し、協力を得ながら対応する体制を整えている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	〇プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が理解しやすいように、介護現場に即した内容でプライバシーについての勉強会を行っている。記録物は事務所の鍵付きの棚に保管されるなど、個人情報の取り扱いも適切に行われている。		
21	52	〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課は決まっているが、利用者一人ひとりのその日の体調や希望に応じて、可能な限り臨機応変に対応している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見を取り入れて、毎日の献立を作っている。一人ひとりの力量に配慮しながら、職員と一緒に下ごしらえを行っている。利用者と職員が、会話をしながら笑顔で食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表を作成しており、適切に入浴が行えているかを確認できるようにしている。入浴した順番を記録に残し、利用者間でのトラブルが無いように配慮している。		
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、得意なことを生活の中に取り入れて、楽しみのある生活が送れるように支援している。近所の公園の草取りなどを行うことで役割意識が持て、生きがいとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買出しや畑の草取りなどで外に出る機会を作り、気分転換を図っている。季節に応じてドライブを計画し、なるべく屋外に出て季節を感じることができるように支援している。		
（４）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけておらず、出入り口の扉が開閉するとベルが鳴る仕組みになっている。職員同士で声かけをし、利用者が安全に外出できるように連携を図り、一緒に付き添うようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行い、災害時に適切な対応ができるようにしており、風水害に備えた非常食も準備されている。地域住民に対しては、運営推進会議などを通して協力を得られるように働きかけている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に食事量、水分量を記録し、食事、水分がどの程度確保されているか、全職員が確認できるようにしている。また、食事内容に偏りがないように、献立を細かく記入する工夫を行っている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事をするフロアは窓が多く、明るい雰囲気が漂っている。ソファが置かれており、思い思いの場所でゆっくりと過ごせるように工夫されている。		
30	83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた家具を持ち込み、個性的な部屋作りがなされている。フローリングの居室に畳を敷き、馴染みやすくするなどの配慮が見られる。		